



11 元櫻橋南詰

『心中天網島』のクライマックスの有名な一節「道行名残の橋づくし」には、西から東へと道筋に架かる橋が順に登場し、心中に向かう男女の心情が表現されている。「別れを嘆き悲しみて、あとにこがえる櫻橋…」と歌われた櫻橋はここに。
▶曾根崎新地 1-3-16

12 梅田橋跡

『曾根崎心中』のお初がいた茶屋はこの付近。徳兵衛と心中へ向かう際、まず梅田橋を渡って天神の森へと姿を消した。昔から橋はあの世に繋がる象徴として浄瑠璃でも描かれている。当時は北側の梅田墓へ続く参道として界隈で一番古くに架けられた。石碑はないが、近くのビルに梅田橋の名前が残る。
▶堂島 3 付近

9 曾根崎川跡・蜷橋銅板標

曾根崎川の別名は蜷川。かつて北新地を東西に流れ、川を挟んだ北側の歓楽街を「曾根崎新地」、商業地として発展した南側を「堂島新地」と呼んだ。1909 (明治42) 年に発生した北の大火で上流部分が埋まり、架けられた橋も多くの焼失した。
▶曾根崎新地 1-5-29

10 堂島薬師堂

堂島アバンザの敷地内に鎮座。聖徳太子の時代からこの地にあり、「御堂がある島」から「堂島」という地名になったと伝わる。ミラーガラスが輝くモダンな球体に生まれ変わったのは、堂島アバンザの開業と同じ1999年。月2回の法要と毎年2月に行われる節分お水汲み祭りには、奈良・薬師寺の僧侶がお経を唱える。
▶堂島 1-6-20 参拝自由

7 ごて地蔵

「ごて」の由来は「ごねる」。1929 (昭和4) 年に曾根崎警察署を建てる際、地中から掘り起こされた地蔵を工事の邪魔だと扱ったところ、立て続けに災いが発生。「お地蔵さんがごねている」とおまつりした。以降、招福除災のお地蔵さんとして愛されている。
▶曾根崎 2-16-14

8 蜷川跡・蜷橋

建物の一部に組み込まれた珍しい石碑。茶屋が建ち並んでいた江戸時代、蜷川は客たちが船遊びをしたり、川沿いの座敷で芸者の歌や舞を楽しむんだりといった実に粋な風景が広がっていた。
▶曾根崎新地 1-1-49

6 法清寺 (かしく寺)

江戸時代の遊女かしくの墓がある日蓮宗の寺院。かしくは酒乱で、酔った勢いで兄を刺殺してしまう……。首打ちの刑に処される前に断酒を誓ったことから「断酒の神」として信仰を集めるようになった。処刑の直前、役人に油揚げを所望してその油を髪になでつけ、身だしなみを忘れぬ姿も話題になり、浄瑠璃や芝居でも上演されている。
▶曾根崎 1-2-19 8:00 ~ 日暮れ



2 太融寺

『曾根崎心中』の冒頭はお初が大坂三十三ヶ所観音巡りをする場面。その第一番札所がここ。弘法大師が821 (弘仁12) 年に開基し、太融寺の名前は『源氏物語』のモデルのひとりとされる源融 (みなもとのおと) が、父・嵯峨天皇の遺志を継いで伽藍 (がらん) 整備を行ったことに由来。大坂夏の陣で焼けながらも復興。境内には豊臣秀吉の側室・淀殿の墓が建ち、大坂城落城とともに自刃した命日の5月8日には毎年法要が行われる。
▶太融寺町 3-7 参拝自由



【左】写真は西門。かつては広大な寺域を誇った
【右】大重の石塔が淀殿の墓。境内の隅にひっそりと建つ

3 網敷天神社

全国で唯一、嵯峨天皇を主祭神とする梅田界隈の氏社。皇子の源融が843年に創建。この58年後、菅原道真が大宰府へ左遷される途中、当地に咲く紅梅の香りに誘われ、船の綱を円座状に敷き梅見をし「網敷天神社」と呼ばれるようになった。茶屋町に御旅社、角田町に末社・歯神社 (P28) がある。古くは「喜多埜 (きたの) 天神」ともいわれ、そこから転じて「北野」という地名になった。
▶神山町 9-11 参拝自由

4 船入橋碑

川船で荷物を運ぶことが主流だった江戸時代。中之島に集まる蔵屋敷の敷地内に、船で直接荷物を運び入れるため設けた入堀に大きな橋を架けた。長さは約7~15mで、この碑の場所には鍋島 (佐賀) 藩蔵屋敷があった。『心中天網島』の小春と治兵衛は船入橋を経て天神橋を渡り、心中する網島 (都島区) に向かっていく。
▶北区西天満 2-1-18

5 神明社旧跡

かつて海に浮かぶ孤島だった場所に、源融が天照大神 (あまてらすおおみかみ) をまつたことが起源。社殿が西を向いており「夕日の神明」「夕日神社」と呼ばれていた。1909 (明治42) 年の北の大火で社殿が焼失。現在は露天神社 (お初天神) に合祀され、当地には石碑が建てられている。
▶曾根崎 1-6 参拝自由

堂島・曾根崎・北野

近松門左衛門が描いた悲恋の物語『曾根崎心中』。2020年に亡くなった歌舞伎俳優・坂田藤十郎さんが生涯をかけて演じた物語の舞台である曾根崎川 (蜷川) 沿いの道行きエリアを歩き、登場人物たちに思いを馳せれば、悲しくも美しき景色が見えてくるはず。

